

インタラクティブ機能付プロジェクター導入で、 宿泊客のビジネスを効果的にサポート リピーター獲得にも大きく貢献

価格: オープンプライス
明るさ: カラー 3100ルーメン
全白 3100ルーメン
質量: 5.6kg

品川プリンスホテル Nタワーは、旧ノースタワーを2013年3月にリニューアルオープンしたもので、ターゲットをモバイルワーカーやビジネスパーソンに絞った新しいビジネスパーソン向けのホテルである。その象徴となるのが、Wi-Fi®や全席にコンセントを配置したビジネスラウンジ。全77席のワークスペースと3つのミーティングルームで構成され、ミーティングルームの一室にインタラクティブ機能付プロジェクター「EB-1410WT」(ボード一体型)を導入した。自宅・仕事場に続くサードプレイスという位置付けで、利用者のビジネスをサポートするNタワーの利用状況について、宿泊 マネージャー補佐でNタワー担当の山崎令恵氏にお話を伺った。



インタラクティブ機能付プロジェクター・超短焦点モデル EB-1410WT



導入機種: EB-1410WT (1台)、
IWS-72VEC (1台)
電子ペン
プリンター複合機
(PX-605F)
設置: ボードスタンド

品川プリンスホテル Nタワー

所在地: 東京都港区高輪4-10-30

最寄駅: 新幹線・JR線・京急線・品川駅

URL: <http://www.princehotels.co.jp/shinagawa/ntower>

Before

ニーズ・問題

- ビジネスラウンジを併設したホテルとして、宿泊者の仕事をサポートする設備を導入する。
- 出張中であっても手軽に会議やプレゼンテーションができる環境を創出する。
- 全国のビジネスパーソンにとって、自宅・会社にくるサードプレイスになる快適な環境をつくる。

After

導入後

- 自分のオフィスにいるように会議やプレゼンができるICT環境が整った。
- 新しいアイデアの創出など会議室利用者のビジネスを成功に導くことができた。
- ビジネスラウンジおよびプロジェクター目当てのリピーター宿泊者を獲得できた。

導入背景

自宅・会社にくるサードプレイスとしてICT環境を強化

品川プリンスホテル Nタワーは、「シンプル・クイック・コンフォート」をコンセプトにしたビジネスパーソン向けのホテルである。簡便ながら本当に心地よい空間を提案するというもので、客室(全257室)にはワイドサイズのデスクなど仕事に集中できる環境を提供。同ホテルとしては初となる靴を脱いで利用するフローリングタイプも用意している。

コンセプトを明確に体現しているのが最上階17Fにあるビジネスラウンジで、1人用のワークスペースをはじめ、打ち合わせ用のソファや大型テーブル、さらにはリラクゼーションスペースも設けている。ラウンジには、エプソンのビジネスインクジェットプリンター3台を設置、商談等で紙資料が必要な場合、利用者が自由に出力できるようになっている。

また、会議や商談用のミーティングルームも3室を用意。定員12名のN1ルームと各8名ずつのN2、N3ルームがあり、インタラクティブ機能付プロジェクター「EB-1410WT」は、N1ルームに設置されている。「ご宿泊者の皆様にとって、自宅や仕事場に続くサードプレイスとして活用していただきたいと思います。そして、アイデアの創出などビジネスにつながるものを生み出さいただくために、機能性の高い情報機器の導入を決めました」と山崎氏。そこから、エプソンとの協力体制がスタートしたのである。



品川プリンスホテル
宿泊3 マネージャー補佐
(Nタワー担当)

山崎 令恵 氏

選定理由

プロジェクターの高い機能性と将来性に期待!

収束型ミーティングの場と位置付けられたN1ミーティングルームは、決裁を伴う会議やプレゼンテーションといった利用に適しており、全12席の他に窓際には傍聴席もある。インタラクティブ機能付プロジェクター「EB-1410WT」は、会議やプレゼンにおける顧客ニーズを反映して導入された。「限られたスペースで、ホワイトボードとして使え、なおかつプロジェクターにもなるというのは画期的でした。お客様ニーズを両面からサポートするという意味で最適なプロジェクターだと判断しました」(山崎氏)。また、画像を取り込みたい、ラウンジの共有スペースで使いたいなどニーズが多様化することも踏まえ、プリンター複合機とボードスタンドをセットにすることも決め手になった。

さらに、機種選定には利用者の若返りも考慮したという。「教育現場で

インタラクティブ機器の利用が進んでおり、モバイル機器はもちろんプロジェクターの操作もお子様には身近になっているようです。30、40代のメインターゲットの方々が仕事をしやすく、お子様にも使いやすいという高機能プロジェクターは、新しいビジネスホテルを提案するNタワーに不可欠だと思いました」(山崎氏)。

なお、Nタワー4・5Fにもミーティングルームがあり、こちらにはスクリーンに投映するタイプのエプソン製ビジネスプロジェクターが採用されている。



ラウンジ併設のN1ミーティングルーム
に「EB-1410WT」は設置されている。

導入効果 ビジネスラウンジ目当てのリピーター宿泊者が定着

N1ルームの利用者からは、前回の会議内容などスマートフォンで撮った資料をすぐに投映できて「自社で会議をしているような感覚が良い」、プリンター複合機との組み合わせで「時間が短縮できて会議が効率化できた」という声が多いそうだ。また、「会議の当初の主旨とは別に新しいアイデアが生まれた」というNタワーのコンセプトを具現化するようなケースもあり好評を博している。

また、Nタワーは実験的な試みが多いため、利用者の立場で検証するために、ミーティングルームを使ってホテルスタッフによるアフターミーティングも週1回のペースで行われている。全員がインタラクティブ機能付プロジェクターを使いこなし、宿泊者に説明できるようにするという狙いがあるが、会議がスムーズに進行することにも驚いているという。「前回の手書きデータもサーバーやUSB等で共有できるので、議事録を作成する手間が省けるのが嬉しいです。また、一人ひとりが会議のメモを取っていると、その書き方で認識が変わることがありますが、大事なことが書かれたインタラクティブ機能付プロジェクターの画面を共有すれば、その心配はありません。共通認識のもとでアイデアを出すことに集中できます」

と山崎氏は導入効果を感じているようだ。

N1ルームは、とてもリピート率が高いという傾向が出ている。一般的にレンタルの会議室は、利用人数で部屋を決めるが、N1ルームは8名以下での利用が約半数を占めており、その内訳を見るとリピーターも多い。部屋のサイズではなく、使い勝手で選ばれていることが明らかで、プロジェクターが気に入ったという理由から定期的に2名でミーティングを行うリピーターもいるそうだ。

N1ルームの利用目的は、社内会議、プレゼン、取材対応、セミナーと多岐にわたっている。「地方から出張されているお客様にとっては、東京に来て商談やプレゼンをされるのはプレッシャーが2倍になると思います。ここをご自身のホームプレイスとして使っていただければ、逆に東京の取引先やクライアントを招くことができ、成功率も高まる事が期待できると思います」と山崎氏。

なお、ビジネスラウンジの宿泊人数に対する利用率は、オープン当初と比べて半期後には倍増しており、ラウンジ目当てのリピーター宿泊者が確実に定着している状況であるそうだ。



Nタワー最上階にあるビジネスラウンジ。プリンター、コピーなどのビジネスツールやドリンクサーバーなどが無料で利用できる。



ラウンジの内装テーマは「BUSINESS VOYAGE (ビジネスの旅)」。



ビジネスラウンジにはエプソンのビジネスインクジェットプリンター3台が設置されている。

プロジェクター接続構成図



N1ルームの利用目的は、社内会議、プレゼン、取材対応、セミナーと幅広い。



ミーティングルームN2、N3はリビングルームのような装飾で、緊張せずに積極的な発言を生むような環境になっている。

今後の展望 ICT機器の活用で東京と全国を結ぶ交流の場へ

Nタワーでは、毎月第3火曜日に「品プリBizサロン」という交流会を行っている。世界の最新ビジネスシーンや成功例などの講演を開いたり、軽食を用意して気軽に情報交換をしてもらい、宿泊者同士の交流をホテル側がサポートしているのである。さらには、ビジネスラウンジを宿泊者専用にとどめるのではなく、ビジネスラウンジメンバー（有料）を募り、東京と全国各地の交流やマッチングも強化していく予定である。ビジネスサポートに関しては、新しいムーブメントを起こしたいというのが山崎氏の考えだ。「ビジネスサポートの横展開を検討しています。ホテルのサービスに加えお客

様の今までにない存在になれる可能性がNタワーにはあると思っています」。

また、観光レジャーの宿泊者が増える週末は、ミーティングルームを家族向けに開放するイベントも実施している。子ども向けの映像を流し、折り紙や塗り絵で遊べるだけではなく、その様子を撮影してA3・A4サイズで出力できることが好評を博している。来年度以降は、N1ルームのプロジェクターを使った遊びも提供していく予定だ。品川は江戸時代に宿場町として栄えた歴史があるが、Nタワーでは、ICT機器を活用して、人々の交流や情報拠点としての発展を目指している。

(注) Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

お問い合わせ

プロジェクターインフォメーションセンター
☎ 050-3155-7010

製品に関するご質問・ご相談に電話でお答えします
受付:月～土曜日
(祝日・弊社指定休日を除く。詳しくはホームページをご覧ください)

*左記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスを利用しています。
*左記番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本、NTT西日本の固定電話(一般回線)からおかけいただくか、042-503-1969までおかけ直してください。